



<https://green-transformation.jp>

GXリーグ GX人材市場創造WG 成果報告

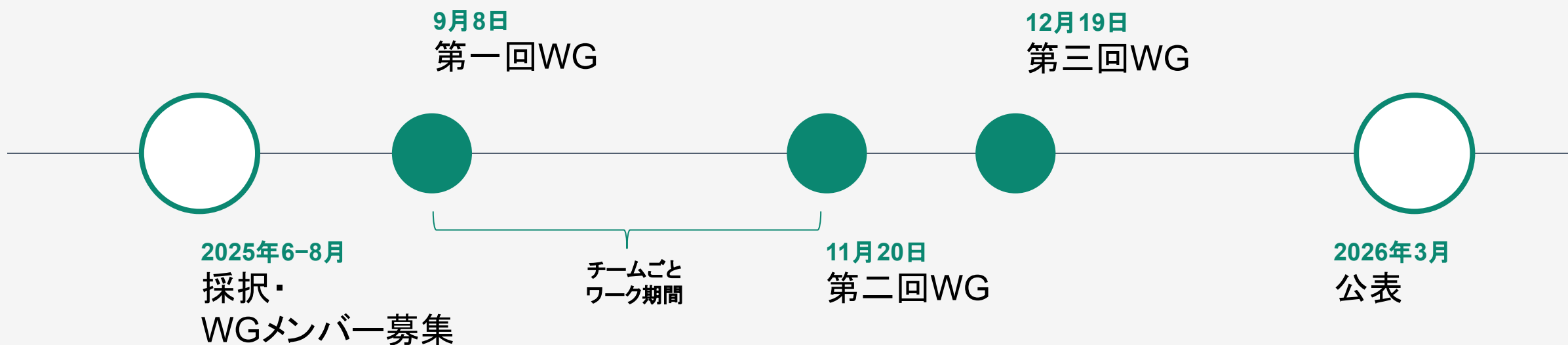
# 2025年度WG取組みと成果

本成果物（2026年3月公表の6点の資料）は、GXリーグ内における、市場ルール形成の取組の一環で組成した『GX人材市場創造WG』内で検討し、GXリーグ参画企業への意見照会を経て作成したものであり、WGの構成員の見解を示したものです。

本成果物（2026年3月公表の6点の資料）はWGリーダー・メンバー以外の企業も自由にご利用いただけますが、ご利用に当たっては各資料に記載の出所を明示ください。

本資料（GX人材市場創造WG 成果報告）をご利用の場合は、以下の通り出所を明示ください  
出所)GXリーグ GX人材市場創造WG 「GX人材市場創造WG 成果報告」（2026年3月）

- 本年度は12月末までの活動期間としたため、全3回のWG実施した



- 本WGの事務局・構成員は以下の通り ※構成員は各企業から代表する者のみ記載、順不同・敬称略

WG事務局

座長

スキルアップ  
NeXt株式会社

エグゼクティブアドバイザー 小泉 誠

事務局運営

スキルアップNeXt 株式会社	エグゼクティブアドバイザー	小泉 誠
--------------------	---------------	------

スキルアップNeXt 株式会社	GX組織開発Div 執行役員	石橋 和幸
--------------------	----------------	-------

スキルアップNeXt 株式会社	GX組織開発Div	大塚 花七絵
--------------------	-----------	--------

# 本年度WGにて検討を行った座長・事務局・構成員一覧

- 本WGの事務局・構成員は以下の通り ※構成員は各企業から代表する者のみ記載、順不同・敬称略

## WG構成員

### リーダー企業

スキルアップNeXt株式会社

GX組織開発Div 執行役員

石橋 和幸

### メンバー企業

田中鉄工株式会社

トランスコスモス株式会社

中国電力株式会社

清水建設株式会社

パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社

住友商事株式会社

株式会社ゼロプラス

合同会社デロイト トーマツ

オリックス株式会社

アスエネ株式会社

渥美坂井法律事務所・外国法共同事業

株式会社ゼロボード

Boost株式会社

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

株式会社日立製作所

- 本WGの事務局・構成員は以下の通り ※構成員は各企業から代表する者のみ記載、順不同・敬称略

WG構成員

オブザーバー企業

株式会社第四北越フィナンシャルグループ

株式会社ExRoad

豊田通商株式会社

株式会社ダイセル

株式会社U-NEXT HOLDINGS

株式会社明電舎

岩谷産業株式会社

阪和興業株式会社

KPMGコンサルティング株式会社

日本郵政株式会社

上新電機株式会社

株式会社ウェイストボックス

- 本年度WGでは以下の2つのテーマに沿って、3つのテーマを設定し検討実施した
  - 1：スキル標準の社会実装推進のための「活用ガイド」
  - 2：リテラシー（レベル1）の次のラーニングパスにあたる「レベル2相当の共通リテラシー」

### 1：GXスキル標準の実装活用ガイドライン

1-1：全企業・全現場向けガイド  
（初動・共通レベル）



1-2：サプライチェーン  
取組ガイド

### 2：GX推進スキル共通リテラシー（レベル2）検討

レベル2に共通する「プロフェッショナル・リテラシー」の抽出・体系化



GXリテラシー標準（レベル1）

（1と2を受けて）3：関連する「GXスキル標準」の見直し

GXリテラシー標準

GX推進スキル標準

テーマ

目的・背景

検討内容想定

1-1: 全企業・全現場向けガイド  
(初動・共通レベル)

- 業種・業態・企業規模を問わず、「まず全員が共通して取り組むべきGXアクション」の具体化
- “とにかく最初の一步”を踏み出すための要点・アクションリストを策定

- 自社の現場ヒアリングや事例収集から「現実に最初につまずく・悩むポイント」を抽出
- 「はじめてのGX」導入ステップ／アクションリストのたたき台作成

1-2: サプライチェーン取組ガイド

- 自社内だけでなくサプライチェーン(取引先・協力会社・グループ内)を巻き込むための“共通アクション”の整理
- 「社外と連携しながら進めるGX」の“最初の壁”と“打ち手”をガイド化

- 「自社／グループでやったサプライチェーン連動施策」「現場で起きている課題や摩擦」等のヒアリング・共有
- サプライチェーン全体で必須となる“最低限の共通項”のリストアップ

2: GX推進スキル共通リテラシー(レベル2)検討

- 「GX推進スキル標準(レベル2)の入口」が明確化され、レベル1(共通リテラシー)習得者への次のラーニングパスを提示

- レベル1(GXリテラシー)は全員共通の基礎、レベル2は本来ロール別専門性だが、“全ロール共通のプロフェッショナル・リテラシー”が存在し得る

3. GXリテラシー標準更新

テーマ

成果物

1-1: 全企業・全現場向けガイド  
(初動・共通レベル)

人材(役割)から始める・進める GXガイドブック  
(初動・共通レベル)

人材(役割)から始める・進める GXガイドブック  
説明書

1-2: サプライチェーン取組ガイド

サプライチェーン連動 アクションチャート

サプライチェーン連動 アクションチャート  
説明書

2: GX推進スキル共通リテラシー(レ  
ベル2)検討

GXスキル標準

GXSS-L Ver1.1

GXSS-P Ver2.1

3. GXリテラシー標準

# WG成果物

1-1

人材(役割)から始める・進める  
GXガイドブック(初動・共通レベル)

---

- はじめてGXを推進する企業（担当者）へ、知る／測る／減らす／開示の4フェーズで整理
- ポイント1：チェックボックスを利用しつつそれぞれのフェーズでどんな人材が自社に必要なかわかる
- ポイント2：必要な人材の役割（ロール）詳細をスキル標準で参照可能
- ポイント3：フェーズ別GX実践ストーリー一付

## 人材（役割）からはじめる・進める GXガイドブック

～脱炭素という新たな経営課題へ、一歩目を踏み出した方への実践ガイド～

自社のGX推進の“今”と“次”にやるべきことが見えるガイドブックです。従来の「成長」に向けた土台として、「知る・測る・減らす・開示」の4フェーズごとに人材の観点から整理しています。まずは蓄積した土台を踏き脱炭素社会への移行を目指しましょう。必要に応じて、2025年5月公表の「GXスキル標準（GXSS）」を参照しながら活用してください。

### いま自社でどこまでできているか、チェックリストで確認してみましょう。

項目は、基本的な内容から順に並び、2～3ページの「関連する役割（人材）」の欄でも対応しています。未達成の項目があれば、GXスキル標準の各ページを参考にしながら、次のステップへ進んでいきましょう。

### 成長する 脱炭素社会に移行する

自社の成長が社会的責任を担う企業として、社会に貢献する役割を果たすため、人材の育成と確保が重要な課題となります。

### 知る

- GXに関する理解を深めている
- Scope 1～3の排出量や削減目標を理解している
- GHG削減に関する主要な取り組みを理解している（GHGプロトコル、ISSB/SSB等）
- 自社事業に関するGXのリスクと機会を理解している
- 入札や取引に影響するGX対応と法規制を理解している
- 各部署の業務や実行の先行事例を理解している

### 測る

- GHG算定に関する主要ガイドラインを理解している
- 自前に応じたGHG算定方法・優先度を設定している
- 自社のGHG排出量の削減目標を設定している
- 自社サービスやGXの長期計画を策定している
- 社内外と連携しGHG算定体制を構築している
- GHG排出量を分析し、社内外に報告している

### 減らす

- 自社に合ったGHG削減施策を立案・実行している
- 政府の補助金等を活用し、削減計画を関係部署と進めている
- 関連法規やSBT等の時給みに対応している
- インテグラルカーボンフットプリントを推進方針に反映している

### 開示

- GX情報開示の法令・ガイドラインに適切に対応している
- 投資家等との対話を通じてGX戦略を発信している
- 開示の信頼性を高める体制を構築している

GXは、「知る」「測る」「減らす」「開示」を土台として、「企業の成長」へと繋げていくサイクルです。それぞれのフェーズを理解し、自社に不足している人材やスキルを見極め、一歩ずつ取り組みを始め、土台を築いていきましょう。

会社の規模によっては、開示が法的に必須になっている場合もあります。開示項目を理解し、GXの業務の流れを知り、算定・削減のうえ結果を開示しましょう。また、GXのサイクルを少しずつ大きくしていきましょう。

※ページ番号は、GXリーグが人材市場創造WG「GXスキル標準（GXSS）」（2025年5月）の参照先ページです。  
 ※ISSB・SSBは、有価証券報告書などで求められる、非財務情報開示の標準。  
 ※SBT（SBTI）は、パリ協定などの国際的な合意に基づき、科学的根拠に基づく具体的な削減目標を設定し、削減計画を策定し、削減計画の進捗を定期的に報告・検証する期間的なインセンティブ。  
 ※GHGプロトコルは、自社のサプライチェーン全体の排出量を算定するための国際的な標準。

### 知る — GXの必要性を理解し、社内の推進体制を築く

**主な業務**

- 全社リテラシーの向上
  - 全社員（経営層含む）が共通言語としてGXの基礎知識を習得する。
- 自社の役割と責任の明確化
  - 自社のビジネスモデルにおけるGXの重要性と、各部署の役割・責任を定義・理解する。
- 人材・スキルのギャップ分析
  - 推進に必要な人材を特定し、不足しているスキルへの対策を検討・実施する。

**関連する役割（人材）**

- 法規制・ルール把握 [GXストラテジスト：GX情報開示 GXコミュニケーション：GXマーケティング・営業]
  - 法規制、業界ルール、国内外の先行事例を把握する。
- インシニアチブ理解 [GXマーケティング・営業、GXストラテジスト：GX削減計画]
  - Scope 1～3の目標設定や、ISSB・SSB基準などの枠組みを理解する。
- リスク・機会分析 [GXストラテジスト：GX事業企画・管理]
  - 中長期的な事業リスクと、GXによる新たな機会を特定する。
- 取引・入札対応 [GXストラテジスト：GX情報開示]
  - 入札要件や取引条件に影響するGX関連情報を理解し、対応する。

### 測る — 排出量を算定し、減らすための土台を作る

**主な業務**

- GHG排出量の算定
  - 自社の排出量を算定し、必要に応じて製品単位（CFP）や削減貢献量も算出する。
- 算定体制の構築とデータ収集
  - 関連法規やGHGプロトコル等各種算定ガイドラインに基づいて電気・ガス使用量等の活動データを収集・整理し、算定・報告体制を整える。
- 算定結果を拠点・工程・サプライヤー別に分析し、主要な排出源や要因を特定する。

**関連する役割（人材）**

- 算定ロジックの構築 [GXアナリスト：GHG排出量算定]
  - 適切な算定方法論（GHGプロトコル等）や算定範囲・精度を設定する。
- サブシステム構築 [GXアナリスト：GHG排出量算定、GXコミュニケーション：GXマーケティング・営業]
  - 排出プロセスを把握し、自社サービスが顧客にも与える削減貢献量を定量化する。
- 組織内外コミュニケーション [GXアナリスト：GHG排出量算定、GXコミュニケーション：GX調達]
  - 関係部署や社外と連携し、算定体制の構築をリード・マネジメントする。
- データ分析・報告 [GXアナリスト：GHG排出量算定]
  - 排出要因を分析し、経営層及び社内外関係者に報告する役割を担う。



### 開示・IR などその他 — 透明性高く開示し、企業価値を高める

**主な業務**

- 情報開示の実施と透明化
  - ISSB・SSB基準の時給みに沿ってGX情報を特定・収集し、公表資料としてまとめる。
- ステークホルダーとの対話
  - 自社の取組について公表資料を用いて投資家や取引先等と対話・折衝する。
- 信頼性の担保と更新
  - 必要に応じて第三者保証（合理的保証、限定保証）を取得する。

**関連する役割（人材）**

- 開示フレームワーク対応 [GXストラテジスト：GX情報開示]
  - ISSB、GDP等のガイドラインを理解し、適切な開示形式を要する。
- 投資家・外部対応 [GXコミュニケーション：GX IR・広報]
  - エンゲージメントを推進し、GX取組の取組意向に向けた対話をリードする。
- 法規制・法令遵守 [GXコミュニケーション：GX IR・広報]
  - 開示に関する関係法令やガイドラインを把握し、適正な報告を管理する。
- ガバナンス・体制構築 [GXストラテジスト：GX情報開示]
  - 開示情報の信頼性を確保する社内体制を構築し、推進する役割を担う。

### 減らす — 削減計画を策定し、実行・改善を推進する

**主な業務**

- 削減目標とKPI設定
  - 組織横断的な体制を構築し、実行力を高めるための目標（KPI）を設定する。
- 削減計画の策定と実施
  - 経営方針に沿った具体的な削減施策を立案し、定期的なモニタリングを行う。
- 外部資金・制度の活用
  - 補助金制度や政府の支援策、SBT等の民間枠組みへの対応を検討・推進する。

**関連する役割（人材）**

- 削減施策の立案・実行 [GXストラテジスト：GX削減計画]
  - 事業内容に応じた具体的な削減施策を立案し、関係部署と連携して推進する。
- 法令・規制対応 [GXストラテジスト：GX削減計画、GXプロジェクトマネージャー：GXプロジェクトマネジメント]
  - 省エネ法などの法令遵守や、SBT等の国際標準への適合を管理する。
- 補助金・資金調達 [GXストラテジスト：GX削減計画]
  - 削減計画の実行に必要な補助金や、環境投資に関する情報を収集・活用する。
- カーボンファイナンス活用 [GXコミュニケーション：GX調達]
  - インテグラルカーボンフットプリントの設計・運用を理解し、調達方針へ反映させる。

## フェーズ別GX実践ストーリー

### 知る

**経営層の気づき**

顧客からの開示要請に対し、当初は経営層の理解が得られず全社的な取組に至っていなかった。しかし、取引先からの開示要請を機にGX経営を決定。全社員へのリテラシー教育とロール別スキル習得を支援した結果、GX製品の開発・販売に成功。認知度と売上比率が向上し、業績アップを実現した。

### 測る

**はじめの一歩**

排出量算定の必要性を感じつつも、専門用語の壁により着手が遅れていた。そこでGXスキル標準を活用。自社に必要なスキルを特定し、GXスキル標準レベルに達するよう育成計画を立てた。担当者が知識を得たことで、スムーズに算定を開始でき、具体的な削減目標に向けた一歩を踏み出した。

### 減らす

**部署連携で前進**

算定はしたが、具体的な削減方法や優先順位が不明で計画が形骸化。GXスキル標準に基づき、選んだ人材を定め、削減に必要なスキルの習得を支援。実効性の高いロードマップを策定し、効果的な削減へと繋がった。

### 知る・減らす

**属人化の脱却**

担当者業務が集中し、選別によってGX推進に支障が出ていた。GXスキル標準を用いて各業務に必要なスキルを整理。選別のスキルを新担当者が習得し、分担できるよう育成計画を立てた。個人の経験に頼っていた業務が標準化され、継続して定着して継続できる体制を構築できた。

### 減らす・開示

**補助金活用+PR**

削減計画の費用確保に苦労していたが、社員がGXスキルを習得した結果、関係部署に際するGX補助金の要件を満たしていることが判明。申請し、採択された。コスト削減量の両方を削減した実績を公表したところ、メディアなどから反響があり、想定以上の宣伝効果が得られた。

※各ストーリーは、GX標準の一側面を示すモデルケースとして構築したものであり、特定の企業・事例を示すものではありません。

GXは、まず自社ですることから一歩ずつ取り組み、実際の幅を少しずつ広げていくことが重要です。GXスキル標準やこのガイドブックを活用しながら、GXを進めていきましょう。

**【理解を深めるための参考資料】**  
 本ガイドブックの構成「知る・測る・減らす」は、環境省が提供する脱炭素経営のステップに基づいています。より詳細な実務や具体例については、以下の資料を併せてご活用ください。

- GXスキル標準
  - [https://gx-league.go.jp/about/gxss/document/gx\\_skill\\_ver2.0\\_20250514.pdf](https://gx-league.go.jp/about/gxss/document/gx_skill_ver2.0_20250514.pdf)
- グリーン・バリューチェーンプラットフォーム（環境省）
  - [https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply\\_chain/gvc/index.html](https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html)
- 中小規模事業者向けの脱炭素経営導入ハンドブック
  - [https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply\\_chain/gvc/guide.html](https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/guide.html)



# 人材（役割）から始める・進める GXガイドブック ダウンロードURL

[https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai\\_guidebook.pdf](https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai_guidebook.pdf)

**PHASE 2: 知る (Measure) 現状を正確に可視化する——概要**

**目的** 事業活動に伴う Scope1,2,3の排出量を算定し「減らす」ための方針・目標を立てるための土台を作る。

**目標達成** 削減すべきポイントがデータで可視化されている状態。

**主な業務 (Key Tasks)**

- 算定・報告体制の準備** データ収集体制を構築し、削減活動等を実施・継続的な測定に活用する。
- GHG排出量の算定** Scope1, 2, 3を算定。必要に応じて削減量も算出する。
- 排出量の分析** 算定データを整理し、エネルギーなどにより排出量を特定・分析する。

日本緑工会「CO2チェックシート」: <https://www.ksei.or.jp/checksheet>

**PHASE 1: 知る (Know) 全社的な土台を築く——概要**

**目的** GXの必要性を理解し、実際の業務で求められる役割を知る。

**目標達成** 社員一人ひとりが「なぜ自社にGXが必要か」を自分の言葉で語る状態。

**主な業務 (Key Tasks)**

- リテラシーの習得** 経営層を含む人材がGXに関する基礎知識を身につける。
- 役割の理解** GX推進における各部門の役割と責任を理解し、必要な知識を習得する。
- 現状分析** 各フェーズにおいて自社に不足しているスキル・スキルを明確化し、対応を検討・実施する。

**PHASE 2: 知る (Measure) 現状を正確に可視化する——概要**

**目的** 事業活動に伴う GHG排出量を算定し「減らす」ための方針・目標を立てるための土台を作るためのフェーズ。

**目標達成** 削減すべきポイントがデータで可視化されている状態。

**主な業務 (Key Tasks)**

- 算定・報告体制の準備** データ収集体制を構築し、削減活動等を実施・継続的な測定に活用する。
- GHG排出量の算定** Scope1, 2, 3を算定。必要に応じて削減量も算出する。
- 排出量の分析** 算定データを整理し、エネルギーなどにより排出量を特定・分析する。

**PHASE 1: チームと役割**

**Trail Story(実践ストーリー)：経営層の気づき**

取引先リストを元に経営層がGX推進を決定。まず全社員を対象にGXリテラシー研修を実施し、その後、調達や営業など部門(役割)ごとのスキル習得を実施。知識の土台が固まったことが、後の製品開発や売上向上に繋がった。

**関連する役割(人材) - Key Roles & Personnel**

- GX関連の法規制を把握する役割
- 自社事業におけるGXのリスクと機会を把握する役割
- Scope1-3の削減目標や業界ルールを理解する役割
- 人材要件や取引リスク、国内外の法規制に早期対応する役割
- GHGプロトコル、ISSB/SSB等の主要な枠組みを理解する役割
- グローバルや業界の先行事例・動向を把握する役割

**PHASE 2: チームと役割**

**Trail Story(実践ストーリー)：はじめの一歩**

顧客からの要請はあったが、人手不足で手つかなかった。まず最低限必要な担当者を取り戻り、無料ツール(例:日本緑工会「CO2チェックシート」)を活用して排出量を算出。その結果を経営層や削減担当者に共有することから始めた。

**関連する役割(人材) - Key Roles & Personnel**

- GHGプロトコル等の算定方法を理解する役割
- 自社サービスのGX貢献度を定量化する役割
- 目的に応じて適切な算定方法・優先度を設定するスキル
- 組織内外で算定体制の構築をリードする役割
- GHG排出の経路を理解するスキル
- データを分析し、経営層や関係者へ報告する役割

**PHASE 3: 減らす (Reduce) 削減を実施し、実行する——概要**

**目的** 自社の経営方針・意図に即した削減計画を策定し、確実に削減に取り掛かる体制を構築。目標の設定・モニタリングなどを実施する。

**目標達成** 削減目標に向けた具体的なアクションが各現場で実行されている状態。

**主な業務 (Key Tasks)**

- 体制構築とKPI設定** 実行力を高め、継続的な体制を構築し、インセンティブ設計やKPIを設定する。
- 排出削減計画の実施** 経営方針と整合した削減計画を策定し、削減状況を定期的なモニタリング、フォロー、改善する。

**PHASE 3: チームと役割**

**Trail Story(実践ストーリー)：経営層で前進**

実績目標を定めてScope1, 2を算定後、何をするか分からず停滞。ガイドブックを参考に「削減には他部署の人員が必要」と、経営層に共有。経営層の支援のもと、必要なスキルを持つ人材がアサインされ、経営層も又えた削減計画の策定・実行が可能になった。

**関連する役割(人材) - Key Roles & Personnel**

- 自社の事業に即した各種削減施策を立案・実行する役割
- 政府の補助施策等を活用し、関係者や削減計画を推進する役割
- 省エネ法や省エネ法等の法令・民間枠組みへの対応を推進する役割
- インテグラル・カーボン・ファイナンスを調達方針に反映する役割

**PHASE 4: 開示 (Disclose) 信頼を醸成し、次なる対話へ——概要**

**目的** ISSB/SSBなどの枠組みに沿って、自社の取組を透明性高く開示し、ステークホルダーからの信頼獲得とエンゲージメント向上を図る。

**目標達成** 「GX先進企業」として市場から選ばれる状態。

**主な業務 (Key Tasks)**

- 情報開示** ISSB/SSB等の枠組みに基づき開示内容を特定・検証し、信頼性を高める。
- エンゲージメント** 必要資料を揃えて投資家や取引先等と対話・改善する。
- 信頼性確保** 必要に応じて第三者保証(合格保証・限定保証)を取得する。

**PHASE 4: チームと役割**

**Trail Story(実践ストーリー)：補助金活用+PR**

削減費用を捻出できなかったが、ある社員が設備更新のための補助金を発見し活用。GHGと削減量を削減できた。その実績を会社が公表したところ、環境配慮企業としてPR効果が生まれ、金融機関やメディア等から問合せあり、想定以上の宣伝効果を得られた。

**関連する役割(人材) - Key Roles & Personnel**

- GX推進情報開示の関係法令、ガイドラインを理解し、要求事項に沿って開示を行う役割
- 投資家等とのエンゲージメントを推進し、GX戦略の評価向上に向けた対話をリードする役割
- 第三者保証の取得等、開示情報の信頼性確保に関する体制を構築・推進する役割

**まずは自社の現状を確認しましょう**

チェックリストの未達成項目が、貴社の「次一手」になります。

<b>知る</b>	<input type="checkbox"/> GXに関する法規制を理解している <input type="checkbox"/> GHG削減に関する主要な法規制を理解している <input type="checkbox"/> Scope1-3の削減目標や業界ルールを理解している <input type="checkbox"/> 自社事業におけるGHG削減のリスクと機会を理解している <input type="checkbox"/> 国内外の法規制に早期対応している <input type="checkbox"/> GHG削減の先行事例・動向を把握している	<b>知る</b>	<input type="checkbox"/> GHG削減に関する主要な法規制を理解している <input type="checkbox"/> 自社の事業に即した各種削減施策を立案・実行している <input type="checkbox"/> 政府の補助施策等を活用し、関係者や削減計画を推進している <input type="checkbox"/> 省エネ法や省エネ法等の法令・民間枠組みへの対応を推進している <input type="checkbox"/> インテグラル・カーボン・ファイナンスを調達方針に反映している
<b>減らす</b>	<input type="checkbox"/> GHG排出量の算定・報告体制を構築している <input type="checkbox"/> GHG排出量を算定し、削減活動等を実施・継続的な測定に活用している <input type="checkbox"/> 算定データを整理し、エネルギーなどにより排出量を特定・分析している <input type="checkbox"/> 削減目標を設定し、モニタリング・フォロー・改善している	<b>減らす</b>	<input type="checkbox"/> GHG削減に関する主要な法規制を理解している <input type="checkbox"/> 自社の事業に即した各種削減施策を立案・実行している <input type="checkbox"/> 政府の補助施策等を活用し、関係者や削減計画を推進している <input type="checkbox"/> 省エネ法や省エネ法等の法令・民間枠組みへの対応を推進している <input type="checkbox"/> インテグラル・カーボン・ファイナンスを調達方針に反映している

**今後のステップ：GXスキル標準 (GXSS) の活用**

本ガイドで「やるべきこと」が見えたら、次は「誰がどのようなスキルを持つべきか」を具体化しましょう。

- GXスキル標準 (GXSS)** 2025年1月公表。各役割に必要な専門スキルを詳細に定義しています。人材育成の羅針盤としてご活用ください。
- ガイド本体 (詳細版)** 業務の具体的な手順や算定方法を解説しています。本ガイドと併せて活用し、確実なGX推進を可能にします。

GXは自社でできることから一歩ずつ取り組み、実践の輪を少しずつ広げることが重要です。

本ガイドブックとGXスキル標準を活用し、貴社のGX推進を始め、そして前進させていきましょう。

# 人材（役割）から始める・進める GXガイドブック説明書 ダウンロードURL

[https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai\\_guidebook\\_manual.pdf](https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai_guidebook_manual.pdf)

# WG成果物

1-2

サプライチェーン連動  
アクションチャート

---

- ・ サプライチェーンに対するGX推進に必要なアクションと人材がわかるガイドを作成
  - 1) サプライチェーン連動アクションチャート
  - 2) Q&A集

## サプライチェーン連動アクションチャート

## Q&A集

サプライチェーン連動アクション						
No.	フェーズ	主な課題・業務	業務・課題解決例	関係部門	人材類型 (GXSS)	必要な人材スキル
0	目的・方針設定・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体目標の明確化</li> <li>・KPI設定</li> <li>・評価・報告サイクル (半年・1年ごと等)</li> <li>・実務: (活用する場合) GHG報告等を行うITシステムの整備</li> </ul>	KPI設定例: <ul style="list-style-type: none"> <li>・GX説明会参加率</li> <li>・アンケート回答率</li> <li>・改善提案件数</li> <li>・改善率</li> </ul>	関係部門	環境/サステナビリティ担当部門 経営企画/戦略部門 事業管理部門	総務 財務 調達
				依頼元	環境/サステナビリティ担当部門	GXストラテジスト
1	説明会準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライヤーによってGXの理解レベルがバラバラ</li> <li>・説明資料の整合性確保(フォーマットや書き方などの統一化検討含む)</li> <li>・社内外ステークホルダー調整</li> <li>・関係部門(説明者の)バイヤーのGXの理解レベル確保</li> </ul>	サプライヤーの理解レベルアップ・事前参加アンケートや業界別GX事例の事前共有	関係部門	環境/サステナビリティ担当部門 経営企画/戦略部門 事業管理部門	総務 財務 調達
				依頼元	環境/サステナビリティ担当部門	GXプロジェクトマネジャー GXストラテジスト GXコミュニケーション能力
2	サプライヤー説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加率向上(向センティブ設計や制度的支援、技術サポートについて事前連絡)</li> <li>・課題・サプライヤー経営層のコミットメント確保</li> <li>・質疑応答の正確性</li> </ul>	未参加企業への配慮: 動画配信、資料共有	関係部門	環境/サステナビリティ担当部門 経営企画/戦略部門 事業管理部門	総務 財務 調達
				依頼元	サステナビリティ担当部門 調達部門	GXコミュニケーション能力 GXストラテジスト
3	アンケート配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答率の確保 (段階的に実施など)</li> <li>・疑問の設計</li> </ul>	回答率の確保 (段階的に実施など) リマインド時期・フォロー責任者設定	関係部門	環境/サステナビリティ担当部門 経営企画/戦略部門 事業管理部門	総務 調達 総務
				依頼元	環境/サステナビリティ担当部門	GXアナリスト

### FAQ

質問	回答	関連GXスキル項目	主なトラブル例	対策案
サプライチェーン排出量算定でデータ収集が進まない	データ収集プロセスを標準化し、事業部・サプライヤーとの連携体制を構築する	GHG排出量算定	サプライヤーからのデータ未提出、フォーマット不統一	データ収集ガイドライン作成、定期的な説明会開催
Scope3算定でサプライヤーの協力が得られない	持続可能性基準の導入と契約条件の見直しを行い、教育・支援を実施する	GX調達	サプライヤーの理解不足、コスト負担への抵抗	契約条件にGX基準を明記、教育プログラム提供
GHG削減計画のKPI設定が曖昧	科学的根拠に基づくKPIを設定し、進捗管理体制を整備する	GHG削減計画	KPI未設定、進捗管理が属人的	SBTi等の外部基準活用、KPI管理ツール導入
情報開示の信頼性確保が難しい	第三者保証取得やTCFD等の枠組みを活用し、社内体制を整備する	GX情報開示	データ誤記、開示基準の誤解	開示体制の明確化、第三者保証取得
プロジェクトマネジメントで部門間連携が取れない	プロジェクト推進体制を明確化し、役割分担・リソース配分を徹底する	GXプロジェクトマネジメント	部門間の責任範囲不明、情報共有不足	RACIチャート導入、定期的な進捗会議
サステナブル調達の基準が統一されない	サプライチェーン全体でGX基準を策定し、契約・評価に反映する	GX調達	サプライヤーごとに基準が異なる	共通基準策定、評価システム導入
GHG算定方法論の理解不足	GHGプロトコルやISO14067の研修を実施し、社内外で知識共有	GHG排出量算定	担当者ごとに理解度が異なる	研修・e-learningの実施、FAQ整備
削減対策の実行が進まない	PDCAサイクルを導入し、進捗評価と改善策を定期的に実施	削減対策の実行	実行計画が形骸化、進捗不明	定期モニタリング、改善会議の設置
サプライチェーン全体のGHG削減目標が不明確	本社横断の目標設定とKPI管理を行い、関係部署と連携	GHG削減計画	部門ごとに目標が異なる	本社目標の明確化、KPI統一
情報開示のタイミングが遅れる	開示スケジュールを事前に設定し、関係部署と連携	GX情報開示	開示遅延、ステークホルダーからの信頼低下	開示計画の策定、進捗管理
サプライチェーン排出量の可視化が困難	BIツールやダッシュボードを活用し、データの一元管理	GHG排出量分析	データ分散、可視化ツール未導入	BIツール導入、データ統合

# サプライチェーン連動 アクションチャート ダウンロードURL

[https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai\\_actionchart.pdf](https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai_actionchart.pdf)

GXリーグ GX人材市場創造WG  
**サプライチェーン連動  
 アクションチャート 説明書**  
 GXリーグ GX人材市場創造WG  
本説明書はGXリーグメンバー以外の方へ公開されるものではありません。お問い合わせはGXリーグ事務局(GXリーグ事務局)までお願いいたします。お問い合わせ先: GXリーグ事務局(GXリーグ事務局) (03-6342-1111)

構成要素①: WHAT & WHEN

何を、いつやるかを構造化  
 GX推進プロセスを「目的設定」から「次アクション指示」まで10段階に分割しています。

フェーズ	目的	内容	担当者	期限
1	目的設定	GX推進の目的を明確にし、推進の方向性を定める。	経営層	04/01
2	体制構築	推進の体制を整え、推進の責任者を定める。	推進部	04/01
3	関係構築	推進の関係者を特定し、関係構築を進める。	推進部	04/01
4	計画策定	推進の計画を策定し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
5	実行と改善	推進の実行を開始し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
6	評価と報告	推進の評価を行い、推進の進捗を報告する。	推進部	04/01
7	見直し	推進の見直しを行い、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
8	再計画	推進の計画を再策定し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
9	再実行	推進の実行を再開し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
10	完了	推進の完了を確認し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01

なぜサプライチェーンGXの実践のために人・組織に着目するか

第一歩の成功は必ずしも「技術」の優位性によるものではありません。調達、生産、経営企画、研究開発など、多岐にわたる人材・部門間の連携に加え、複数のサプライヤーとの協働が不可欠です。この複雑な多層構造 (Tier 1, Tier 2...) の連携を、介在する人・組織の観点からいかに体系的に管理するかが、最大の課題となります。

構成要素②: WHO & HOW

誰が、なにをするかを明確化  
 各業務を誰が担当し、どのような連携が必要かを明確にします。

フェーズ	目的	内容	担当者	期限
1	体制構築	推進の体制を整え、推進の責任者を定める。	経営層	04/01
2	関係構築	推進の関係者を特定し、関係構築を進める。	推進部	04/01
3	計画策定	推進の計画を策定し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
4	実行と改善	推進の実行を開始し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
5	評価と報告	推進の評価を行い、推進の進捗を報告する。	推進部	04/01
6	見直し	推進の見直しを行い、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
7	再計画	推進の計画を再策定し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
8	再実行	推進の実行を再開し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01
9	完了	推進の完了を確認し、推進の進捗を把握する。	推進部	04/01

実践ツール: アクションチャート

部門 (人・組織) とサプライヤーを繋ぎ、計画から実行までを導く羅針盤

- 組織機軸の連携を円滑化: GX推進における部門間の摩擦を最小化し、共通のゴールに向けた協力を促進するための関係が構築されました。
- 具体的なアクションの体系化: 結果的な目標を具体的なタスクに落とし込み、誰が、いつ、何をすべきかを明確にします。
- 動的な連携ツール: 異なるチャックリストに習熟する、進捗状況や状況変化に合わせて柔軟に更新し続ける (定常化計画) として機能します。

活用のため04ステップ・サイクル

動的なツールとして活用するPOCAサイクル  
 このチャートは一度作って終わりではありません。以下の4ステップを繰り返すことで、実際に合わせて計画を更新し、絶えずGX推進を改善していくための動的なツールです。

双方向に連続する「業務」と「支援」

一方的な依頼から、共に進む「双方向」の関係へ

GX要請・支援

メーカー → Tier 1 → Tier 2 → Tier ...

サプライチェーン全体の脱炭素化は、一方的な要請だけでは進みません。各企業が「依頼する側」と「依頼される側」の両方の役割を担い、要請と支援を双方向に連続させることが重要です。このチャートは、その双方向の連携を可視化し、促進します。

Step 1&2: 計画の基礎を築く

Step1. 役割確認・体制構築  
 フェーズ別に自社の担当部署・担当者を当てはめます。例: 「サプライヤー-関係先」には調達、生産、プラマネを割り当て、連携体制を整理します。

Step2. 行動計画策定  
 「主な課題・業務」を自社の状況に合わせてカスタマイズ。例: 「サプライヤー-関係先」の調達、生産、プラマネに、業界別の動向を追加するなどの調整を行います。

Step 3&4: 実行と改善を継続する

Step3~4では、立案した計画の実行と改善を継続します。

Step3. 実行と連携管理  
 フェーズごとに進捗を管理し、柔軟に調整。アクション計画が成り立つ場合、フォローアップフェーズを前倒しで実施するなど、機動的な対応をします。

Step4. 定期見直し  
 年1回以上の見直しを実施。アクションチャートが形骸化しないよう、常に最新の状況に合わせて更新し続けることが重要です。

【処方箋①: 社内連携と計画策定の課題】

課題: 部門間連携が取れない  
 責任範囲が不明確で、情報共有が不足している。

処方箋  
 RACIチャート (役割分担表) を導入して役割を明確化し、定期的な連携会議を徹底する。

課題: KPIが曖昧か意味が薄くなる  
 KPIが未設定、または進捗管理が属人的になっている。

処方箋  
 SBTなどの科学的根拠に基づいた指標を設定し、管理ツールで進捗を可視化する。

成功の鍵は「人」にある: 3つの重要人材

ポイント: アクションチャートの「必要な人材・スキル」の項目を活用し、自社の人材配置を検討してください。

- GXプロマネ**: プロジェクト全体を計画・管理し、関係者を調整する専任。意思決定の要となります。
- GXコミュニケーションゲーター**: 交渉力と知識をもち、社内内外の円滑な連携を促すハブ役。調整の役割を担います。
- GXアナリスト**: データ分析や集計を担い、客観的な重要決定を支援する分析官。問題を数値で示します。

GX推進をスタートするための3ステップ

STEP1. ダウンロード  
 公式サイトからアクションチャートをダウンロードしましょう。計画の基礎となります。

STEP2. チーム招集  
 調達、生産、経営企画などの関連部署からメンバーを集め、部門の垣根を越えた機動的なチームを組成します。

STEP3. カスタマイズ  
 Step1「役割確認・体制構築」から始め、自社の現状やサプライヤーの状況に合わせてチャートを調整します。

よくある課題とその処方箋

【処方箋③: データとサプライヤー連携の課題】

課題: データ収集が進まない  
 サプライヤーからのデータ未提出や、フォーマットが統一されていない。

処方箋  
 データ収集ガイドラインを作成して標準化し、定期的な説明会を通じて連携体制を構築する。

課題: 協力が得られない  
 GXへの理解不足や、コスト負担に対する抵抗がある。

処方箋  
 契約条件にGX基準を明記し、教育プログラムや支援を提供して協力を促す。

# サプライチェーン連動 アクションチャート 説明書 ダウンロードURL

[https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai\\_actionchart\\_manual.pdf](https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxjinzai_actionchart_manual.pdf)

# WG成果物

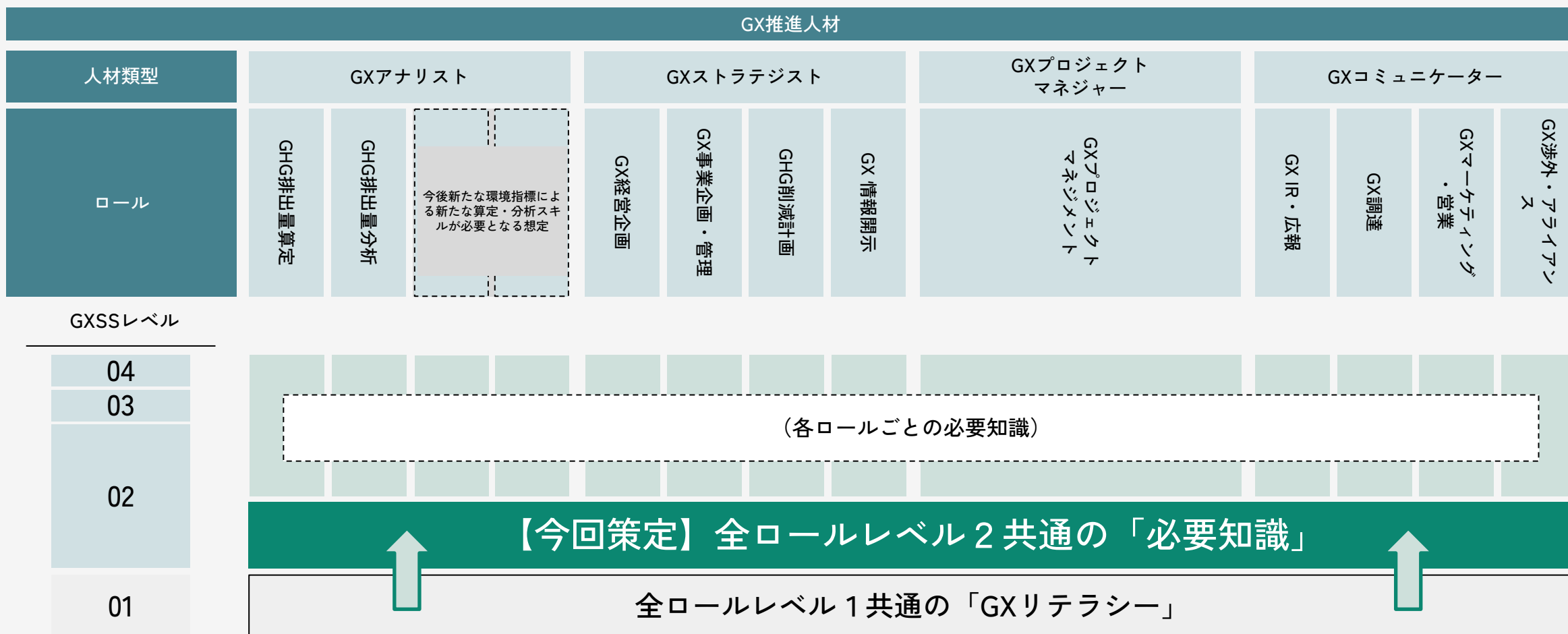
2

GX推進スキル共通リテラシー(レベル 2)

---

- ・ 本年度のテーマ 1 とテーマ 2 の検討の結果、以下の見直しを実施することに決定した。
  - 「GXスキル標準（GXSS-L）Ver1.1」とした
  - 全ロール横断のレベル 2 の共通知識を本編に追加

- 本検討結果により期待されるのは、「GXリテラシー（レベル1）」を学習した者（または組織で育成計画を検討する者）が「レベル2以上（プロフェッショナル）」を検討する際、「まず学習すべき共通知識（レベル2相当）」を知り、一步を踏み出しやすくなることである



- 検討の結果、「GXリテラシー標準」で定めた項目に対し「レベル2」相当の学習到達度を設定した
  - 1) 「GXリテラシー標準」では学習項目に対し「学習到達度（レベル1）」を設定しており、今回はレベル2相当を検討
  - 2) 検討の結果、Why/マインド・スタンスは、レベル1-2間の差異はなかったため、「What/How」項目のみ設定

## 項目一覧

### Why

#### GXの背景

自然環境の変化  
国際社会の変化  
ビジネス環境の変化

### What

#### 何をすべきか

気候関連リスク・機会の把握  
サプライチェーン排出量の算定  
排出削減目標の設定・計画の策定  
削減対策の実行  
気候変動に関する情報開示  
ビジネスモデルの変革

### How

#### どうすべきか

省エネの推進方法  
再エネの調達方法  
燃料・原料転換、新素材  
NETsの採用  
排出量取引・クレジット  
サステナブルファイナンス  
国・自治体の政策  
取組事例

### Mind/Stance

#### マインド・スタンス

バックキャスト  
変化への挑戦  
コラボレーション  
エンゲージメント  
多角的思考  
継続学習

## What 項目

## 内容

## 学習到達度（レベル2）

### 気候関連リスク・ 機会の把握

気候変動がもたらすリスクとビジネス機会を分析し、リスク管理戦略の立案とともに、新たな事業創出の可能性を探る

気候変動が自社のバリューチェーン全体にもたらすリスクと機会を、移行リスクと物理的リスクの分類に基づき、体系的に分析する方法を理解する。

### サプライチェーン 排出量の算定

GHGプロトコルに基づき、自社のサプライチェーン全体の排出量（Scope1、2、3）を算定する

カテゴリごとの算定方法の違いや、自社におけるScope1・2・3の区分、簡易的なデータ収集から排出量算定及び検証までの方法を理解する。

### 排出削減目標の設定・ 計画の策定

科学的根拠に基づく削減目標を設定して、具体的な行動計画を策定する

1.5°C/2°C目標の違いやCN/ネットゼロの定義を理解し、事業特性に応じた削減目標設定や計画策定の方法を理解する。

### 削減対策の実行

省エネ、再エネ導入、燃料転換などの実行可能な削減対策を計画的に実施し、進捗状況を定期的にモニタリングして、PDCAサイクルを回す

削減施策の費用対効果や影響度を算定し、優先順位やKPIを検討して行動計画に反映する一連の方法を理解する。

### 気候変動に関する 情報開示

ISSB基準などの枠組みに沿って、自社の気候変動対策の取組を透明性高く開示し、ステークホルダーからの信頼獲得とエンゲージメント向上を図る

自社が各ステークホルダーから求められる気候変動情報開示の枠組や、自社の開示項目の基本構成といった対応方法を理解する。

### ビジネスモデルの変革

持続可能性を事業の中核に位置づけ、脱炭素型の製品・サービス開発や新規事業創出により、長期的な企業価値向上を目指す

サーキュラーエコノミー、脱炭素型の製品・サービス開発、カーボンプライシング内部化など、脱炭素を契機とした新たなビジネス機会と事例を理解する。

How	項目	内容	学習到達度（レベル2）
	省エネの推進方法	エネルギー使用量の削減によるCO2排出量の低減を進めるとともに、従業員の行動変容を促す意識改革プログラムを通じて、組織全体の省エネマインドを醸成する	自社のエネルギー使用量削減によるCO2排出量の低減余地を特定する方法を理解している。
	再エネの調達方法	自家発電や再エネ電力購入契約（PPA）など、自社に適した再生可能エネルギーの調達手法を理解し、積極的な導入を図る	再エネ調達手段や自社のエネルギー需要・事業形態を理解している。
	燃料・原料転換、新素材	化石燃料から低炭素・脱炭素燃料への転換、再生可能資源・リサイクル材料の活用、革新的な低炭素技術の開発など、サプライチェーン全体での排出量削減に取り組む	自社における燃料・原料の使用実態や、水素等の次世代燃料や低炭素素材に係る政策・技術動向を理解している。
	NETsの採用	大規模な植林や、バイオマス・CCS・DACCSなどのネガティブエミッション技術（NETs）を、自社の排出量削減戦略の選択肢の一つとして検討する	森林管理、バイオマスCCS、直接空気回収、ブルーカーボンといったNETs技術の概要を理解している。
	排出量取引・クレジット	国内外の排出量取引制度やクレジット市場を理解し、自社の排出量削減や相殺に活用する方法を検討する	国内外の排出量取引制度やクレジット市場、カーボンオフセットの仕組みと品質基準を理解している。
	サステナブルファイナンス	グリーンボンドやサステナビリティリンク・ローンなどの活用により、自社の脱炭素関連投資に必要な資金調達を行う	グリーンボンド原則、サステナビリティリンクローン、トランジションファイナンスの内容を理解している。
	国・自治体の政策	国や自治体の環境規制、補助金、税制優遇措置など、脱炭素経営の後押しとなる政策動向をウォッチし、自社の取組に活かす	GX推進法、省エネ法、温対法、カーボンプライシング、補助金・税制優遇制度など国・自治体の政策体系を理解している。
	取組事例	業界別の先進的な脱炭素化事例を学び、自社の取組の参考にするとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションに活用する	自社の取組を整理すると共に、業界別（製造業、運輸、建設、サービス等）の脱炭素先進事例を収集・分析し、自社への適用可能性を評価できる。

# WG成果物

3

**GXスキル標準 (GXSS-P) の見直し**

---

- ・ 本年度のテーマ1とテーマ2の検討の結果、以下の見直しを実施することに決定した。  
「GXスキル標準（GXSS-P）Ver2.1」とした  
サプライチェーン取組の検討を深めた結果、「GX調達」ロールの見直しを実施

人材類型	GXコミュニケーター	Ver2.0
ロール	GX調達	
担う責任	調達においてGX対応策を策定・実施し、サプライヤーのGX基準導入を支援・監督するとともに、適切な削減ソリューションを調達する	
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scope1-2において、再生可能エネルギーや低炭素燃料の調達戦略をGX経営企画と連携し立案・実施する</li> <li>Scope3において、持続可能なサプライヤーを選定し、GX対応に即した契約条件の見直しを行う</li> <li>GX経営企画と連携しサプライチェーン全体の脱炭素化目標及びKPIを設定する</li> <li>GX対応に関する調達プロセスの改善を提案し、調達方針およびガイドラインを作成し、教育を実施する</li> <li>各種イニシアチブに適応可能な削減ソリューションを選定し、導入する</li> </ul>	

必要となるスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scope3の一次データ収集を含むサプライチェーンマネジメントに関するスキル</li> <li>サプライヤーエンゲージメントの必要性を理解し、持続可能性基準の導入を推進するスキル（CDPスコアやSBT目標への理解などを含む）</li> <li>削減シミュレーションを実行し、環境イニシアチブで認められる削減ソリューション（Scope1・2・3）を理解するスキル</li> <li>企業のインターナルカーボンプライシングの設計・運用を理解し調達方針に適切に反映するスキル</li> <li>国内外で現実的に調達可能な削減ソリューションを選定するスキル</li> <li>GX関連の法規制、業界ごとの排出量傾向、削減目標および施策を把握するスキル</li> </ul>
	他ロールとの連携例

人材類型	ロール	関連する業務
アナリスト	GHG排出量算定	サプライチェーンのGHGデータの収集
ストラテジスト	GX経営企画	調達観点での全社戦略
ストラテジスト	GHG削減計画	調達関連の削減施策・KPI管理・評価
ストラテジスト	GX情報開示	情報開示の全体戦略・第三者保証

人材類型	GXコミュニケーター	Ver2.1
ロール	GX調達	
担う責任	GX方針・目標を前提に、サプライヤー対応とScope3データ収集・削減施策を通じ、サプライチェーンGXの実装・運用を担う	
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GX要件を調達プロセスへ実装 取引先選定・評価・契約・監査・運用ルールを、実行可能なレベルに落とし込む</li> <li>・サプライヤーエンゲージメントの推進・運用 説明・面談・Q&amp;A、個別事情を踏まえた支援、依頼元・依頼先双方の負荷調整</li> <li>・Scope3一次データ収集の設計・運用 回収・品質管理・根拠確認・整合性チェック、証跡管理・開示・保証を見据えた運用</li> <li>・削減施策・ソリューション導入の伴走支援 低炭素材料、再エネ、物流、循環等について、コスト・品質・供給制約を踏まえた導入支援</li> <li>・規制・顧客要請を踏まえた調達実務対応 必要情報の収集、運用整備、進捗管理と現場定着</li> </ul>	

必要となるスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Scope3の一次データ収集を含む、自社業態を踏まえたサプライチェーン排出管理のスキル</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライヤーエンゲージメントの考え方を理解し、CDP・SBT等の基準を踏まえ説明・合意形成を行うスキル</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境イニシアチブで認められる削減ソリューション（Scope1・2・3）の考え方と適用条件を理解するスキル</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターナルカーボンプライシングの考え方を理解し、調達判断への反映観点を持つスキル</li> </ul>
他ロールとの連携例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外で調達可能な削減ソリューションを、コスト・品質・供給制約を踏まえて選定するスキル</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GX関連の法規制・顧客要請・業界動向を把握し、調達実務として現場運用に落とし込むスキル</li> </ul>

人材類型	ロール	関連する業務
アナリスト	GHG排出量算定	サプライチェーンのGHGデータの収集
ストラテジスト	GX経営企画	調達観点での全社戦略
ストラテジスト	GHG削減計画	調達関連の削減施策・KPI管理・評価
ストラテジスト	GX情報開示	情報開示の全体戦略・第三者保証

GXSS  
レベル

Ver2.0

ロール：GX調達

04

**GX関連の調達を責任者としてリードすることができる**

- ・ 全社最適の視点からサプライチェーン全体を通じて持続可能性と環境負荷を最適化する戦略を責任者として策定・実行することができる
- ・ サプライチェーン全体の脱炭素化目標設定を行い、サプライヤーに対するGX基準の導入および達成のための支援・監督を責任者としてリードすることができる
- ・ 各種イニシアチブに適応可能な削減ソリューションの選定と導入を責任者としてリードすることができる

03

**GX関連の調達に必要な関連業務を限定した範囲においてリードすることができる**

- ・ GX推進において必要な調達の方針やガイドラインの作成・調達先の教育を限定した範囲でリードすることができる
- ・ 持続可能なサプライヤー選定と契約条件の見直しをリードすることができる
- ・ サプライチェーン全体の脱炭素化目標に従い、調達プロセスの改善提案と実施をリードすることができる
- ・ 各種イニシアチブに適応可能な削減ソリューションの選定と導入をリードすることができる

02

**GX関連の調達に必要な関連業務を上長の指示のもと担当できる**

- ・ 上長の指示の下、サプライヤーに対するGX推進のエンゲージメントを行うことができる
- ・ GX推進に必要な削減ソリューションの調達をサポートできる

01

GXの重要性を理解し基礎知識を有している（GXリテラシー標準レベル）

GXSS  
レベル

Ver2.1

ロール：GX調達

04

**GX関連の調達を責任者としてリードすることができる**

- ・全社GX方針を前提に、調達機能としてサプライチェーンGXの実装・運用全体を統括できる
- ・サプライヤーへのGX要請、Scope3データ収集、削減施策の実行について責任を持って推進できる
- ・実行状況や課題を整理・共有し、関連ロールと連携して改善を回すことができる

03

**GX関連の調達に必要な関連業務を限定した範囲においてリードすることができる**

- ・GX方針を踏まえ、特定領域・カテゴリにおける調達要件や運用をリードすることができる
- ・サプライヤー選定や契約条件の見直し、エンゲージメントを主体的に推進できる
- ・Scope3一次データ収集や削減施策の実装において、調達プロセスの改善をリードできる

02

**GX関連の調達に必要な関連業務を上長の指示のもと担当できる**

- ・上位者の指示のもと、サプライヤーに対するGX要請の説明や対応を行うことができる
- ・Scope3一次データの依頼・回収・整理などの業務を担当として遂行できる
- ・削減ソリューションの調達・導入に関する業務を、限定的にサポートできる

01

GXの重要性を理解し基礎知識を有している（GXリテラシー標準レベル）

GXスキル標準 (GXSS - L Ver1.1\_-P\_Ver2.1)

ダウンロードURL

[https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxss\\_202603.pdf](https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxss_202603.pdf)